

感 謝 の 辞

マーチー デイビッド先生は 1945 年米国カリフォルニア州に生まれ、米国カリフォルニア大学、米国デンバー神学校、米国ドゥルー大学大学院で研鑽を積み、1980 年に“Morality and Social Ethics in the Thought of Charles Hodge”の学位論文で神学博士号 (Ph. D.) を取得されました。その後ミネソタ州のベテル神学校の神学部准教授を経て、1989 年後期から米国合同教会派遣宣教師の身分で本学のキリスト教学科の教会史担当教員として着任し、1989 年から本学の教授に就任されました。以後 26 年半にわたり東北学院大学で神学研究とキリスト教教育に当たられ、2016 年 3 月末をもって御定年により東北学院大学を退職されます。

まずは、今年で創立 130 周年を迎える東北学院が、その設立当初から米国宣教師による物心両面での支えを得ていたことを思うにつけて、本学の教員としてアメリカ近・現代の教会史およびキリスト教倫理の研究と教育に貢献されただけでなく、宣教師としての意識をもって本学の礼拝等のキャンパス・ミニストリーを担われたマーチー先生ならではのお働きに心から感謝したいと思います。

マーチー先生は、アメリカ近代の教会史において重要な位置を占める長老派牧師・神学者のチャールズ・ホッジ (Charles Hodge 1797-1878) の倫理思想の研究を中心に、広く近・現代のアメリカの神学思想の動向を紹介すると共に、アメリカ社会が抱える諸問題を倫理的観点から批判的に考察しておられます。これまで国内外の専門誌に寄稿した研究論文は、核兵器、戦争と平和、原理主義、経済格差等、米国の時代性を反映したキリスト教倫理の問題に置かれ、世界を揺るがす様々な危機に対してキリスト教が取るべき倫理的指針を的確に示してこられました。最近では西洋のキリスト教の発展と密接に結び付いた資本主義や個人主義的自由のもたらした問題について研究しておられ、昨年 7 月 11 日に開催された「アガペーとは何か」を主題とした学科主催の公開講演において語られた、「アメリカの資本主義への倫理的批判」の講演は特に印象深いものでした。資本主義は貪欲に警戒するように命じたイエスの教えに反して貪欲を制度化するものであり、「社会的アガペー」の確立が求められているという先生のご提言を、私たちは今真摯に受け止めなければならないと思います。

また文化、芸術に造詣の深いマーチー先生は、文化・芸術領域での教育を担うと共に、

宗教音楽に関する研究を本学の『宗教音楽研究所紀要』に何度も寄稿しておられます。とりわけ、一時期バイオリニストとしてデンバー交響楽団に所属されていたこともあったマーチー先生のバイオリンの腕前はプロ級であり、先生はその豊かな賜物を本学の音楽礼拝やクリスマス礼拝、サマー・カレッジ等で存分に発揮され、本学のキリスト教活動を非常に豊かなものとされました。またマーチー先生が定期的に担当した英語礼拝は、オルガンによる前奏の後に、“Let’s continue our worship. Please stand up”という定型的な呼びかけで始められ、礼拝堂が一気に荘厳な雰囲気になります。学生にとっては英語によるメッセージを聞いて理解するだけでなく、米国のキリスト教の伝統が育んだ豊かな靈性に直に触れる貴重な機会であったと思われます。

「キリスト教学科四〇年史」には、1994年に行われた学科創立三〇周年行事に触れて、次のような記述があります。「中でも、セミ・プロのバイオリニストであるマーチー教授と四人の子女による祝歌演奏は、まさしく錦上添花を添えるの感であった。戦前・戦後を通じて、専門の音楽家は言うまでもなく、歴代の宣教師の中にはゾーグ神学部長など音楽の才能に恵まれた人材も少なくなかったが、マーチー宣教師は一家を挙げてさまざまなジャンルの音楽演奏により、東北各地の教会や学校の伝道に顕著な貢献を果たしてきたことも感謝である」と記しています。かつてマーチー先生が一家を挙げて音楽による伝道活動を行っていたことを示す貴重な記録です。

東北学院が創立当初からアメリカの宣教師の協力のもとに発展してきたことを覚え、マーチー先生のお働きが本学の歴史に貴重な足跡を残されたことに深く感謝したいと思います。

(出村みや子 記)